

第 47 回(令和 8 年度 第 1 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 8 年 7 月 8 日 (水) 14:00～
- 場 所 黒部市役所第 2 委員会室
- 出席者 協議会委員 20 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通計画 を作成しようと する市	黒部市長	上坂 展弘	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社常務取締役	長瀬 賢一	企画部副部長 興水一紀	
		黒部市タクシー協会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者 (市を除く。)	富山県新川土木センター入善土木事務所長	織田 大祐	所長代理 板屋直人	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	寺島 哲也	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	中田 美智子	本人出席	監事
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	監事
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	本人出席	
		ウィメンズくろべ	黒川 富美香	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学名誉教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	大村 進太朗	本人出席 (オンライン)	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	鴻島 純	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	加藤 貴広	本人出席	
		富山県交通政策局 地域交通・新幹線政策室長	島田 太樹	交通戦略企画課長 黒崎勇一	
		黒部商工会議所会頭	中西 誠	専務理事 藤田信幸	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	本人出席	座長
		Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長	小林 聖子	業務推進グループ長 岡 智和	
		富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	金山 剛	欠席	
		宇奈月商工振興会長	羽柴 進一	本人出席	

■事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山崎課長、西田主幹、花本係長、浅野主事、野坂主事

会議次第

1 開 会

2 あいさつ（会長 上坂黒部市長）

3 報告事項

- (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
- (2) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について・・・・・・・・・資料 2
- (3) 令和 7 年度市内公共交通利用者数及び
路線バス事業の収支状況について・・・・・・・・・・・・・資料 3
- (4) 黒部市地域公共交通計画の進捗状況について・・・・・・・・・・・・・資料 4
- (5) 電動ミニバスの運行について・・・・・・・・・・・・・資料 5
- (6) 富山地方鉄道鉄道線再構築検討会について・・・・・・・・・・・・・資料 6

4 議 案

- 議案第 1 号 令和 7 年度収支決算について・・・・・・・・・資料 7
- 議案第 2 号 令和 8 年度収支予算（案）について・・・・・・・・・資料 8
- 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について・・・・・・・・・資料 9

5 協議事項

- (1) 利用促進（高校生の取込）について・・・・・・・・・・・・・資料 10
- (2) 運賃について・・・・・・・・・・・・・資料 11
- (3) 新幹線生地線の休日対応について・・・・・・・・・・・・・資料 12

6 その他

7 閉 会

開会

○進行：山崎課長

あいさつ（上坂市長）

●会長よりあいさつを行った。

皆さん、こんにちは。黒部市長の上坂でございます。

本日は、第 47 回黒部市公共交通戦略推進協議会ということで、原田先生をはじめ、委員の皆様方にはお忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。また、日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

黒部市は鉄道駅が多いことから、まちづくりの基本方針として「コンパクト・アンド・ネットワーク」を掲げ、施策を進めている。必要な都市機能を適切な場所にコンパクトに集積

するとともに、それらを鉄道やバスなどの公共交通で確実に結んでいくことが重要である。少子高齢化や人口減少が進む中で、今後、公共交通をいかに維持・確保していくかが地方都市の社会において大変重要な課題であると考えている。

本日は、バスや鉄道に関する報告事項及び協議事項を議論いただく予定である。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたく思う。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について
- (3) 令和 7 年度市内公共交通利用者数及び路線バス事業の収支状況について
- (4) 黒部市地域公共交通計画の進捗状況について
- (5) 電動ミニバスの運行について
- (6) 富山地方鉄道鉄道線再構築検討会について

- 事務局より、資料 1～6 に基づき「経過報告」「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について」「令和 7 年度市内公共交通利用者数及び路線バス事業の収支状況について」「黒部市地域公共交通計画の進捗状況について」「電動ミニバスの運行について」「富山地方鉄道鉄道線再構築検討会について」の説明を行った。

○下石委員

前市長は、市民約 80 人を集め、富山地方鉄道に関する意見交換会の場を設けていたり、その他富山地方鉄道沿線の各市町では、アンケート調査を行ったり、市民の意見を聞く場を設けたりしていると思う。上坂市長は富山地方鉄道本線の運行について、今後どのように対応していくお考えなのか、お聞きしたい。

前市長が実施したことを提案として活かすのか、そうでないのであれば、黒部市として改めて独自にアンケート調査や意見交換会を実施し、県が各市町に意見を求める場において、何らかの形で考え方を示す必要があるのではないかと考える。市長としてどのようにお考えなのか、お聞きしたい。

○上坂会長

以前までどう検討していたかというのではなく、現時点でどのように運行のあり方を検討して行くかという考えで推進したいと思う。

昨年から各市町と富山地方鉄道鉄道線の運営に関する考え方について意見交換会をしています。

今後どのように進めていくかということですが、一つは、前回の県主催の検討会でも申し上げておりますとおり、当該区間を運行するに当たりどれだけ費用がかかり、どれだけの収入があるのかといった、コスト面の議論をすることが重要であると認識しております。一方で、富山県地域交通戦略は一昨年に策定されており、その中では、鉄道を公共施設として捉える考え方が示されている。そうであるならば、運営収支についても重要であるが、それに加えて、地域に与える便益がどうかということが重要になってくると考える。

富山地方鉄道の本線の運営のあり方については、まず、便益について、昨年、市民団体の方で算出された結果を県が今後精査されることになると思う。

個人の考えを感情的に市民と議論したところで、建設的な議論にはならないと思う。

まず私たちが示さなければならないのは、どういった費用がかかり、その上でどのような効果や便益を受けることができるのかということであると考えます。これらをお示しした上で、今後どう対応していくべきかという議論を進めていくことが重要と考える。

一定の結果が今月中にも県から示されるものと思っており、その結果を見ながら、改めて議論していきたいと考える。

○下石委員

以前、このような会議の際には、議事録をきちんと公表していただきたいとお願いし、実際に公表していただいた。ただ、1 回目については全文が掲載されたものの、その中で、市側が私の発言に対して非を認めた部分が記載されていなかったため、その点を指摘すると、次回以降は要約文での掲載となった。要約文では、議事録とは言えないのではないかと思います。現在は、録音した内容を AI で文章化することもでき、皆さんの手間を大きくかけずに作成できるため、ぜひそのような方法にも取り組んでいただきたいと思う。

○川端座長

ご意見として伺う。

事務局はなるべく正確に議事録を残すようにしていただきたい。

○加藤委員

資料 4 ページ目に黒部宇奈月温泉駅の乗降者数の結果が掲載されているが、令和 6 年度に比べて令和 7 年度が約 2 万数千人ほど増えている。この要因について、事務局のほうで把握していることがあれば教えていただきたい。

先日、城端線・氷見線の推進協議会の中で、城端線・氷見線の利用について、定期券以外の利用が増えているという話があった。おそらく観光客の方が相当数増えているということが数字で出ている。県東部においても、観光利用の方が増加したことで、新幹線の利用も増加していると捉えてよいのか、その他の要因があるのか、もし分かれば教えていただきたい。

もう 1 点、21 ページの基本施策「(5) 観光とともににぎわいをつくる」において「②-7 黒部宇奈月キャニオンルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進」とあるが、10 月 1 日からキャニオンルートが一般開放されると伺っているが、具体的に連携する事業内容があれば伺いたい。

○事務局

1 点目の黒部宇奈月温泉駅の乗降者数の増加要因について、令和 7 年度は、観光客が少しずつ回復してきていると考える。

2 点目の黒部宇奈月キャニオンルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進については、10 月 1 日からキャニオンルートが一般開放されるという情報もあるため、これから何ができるか検討していきたい。

議 案

(1) 議案第 1 号 令和 7 年度収支決算について

●事務局より、資料 7 に基づき、令和 7 年度収支決算について説明を行った。

●菅野委員より、監査報告を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 1 号については原案のとおり承認とする。

(2) 議案第 2 号 令和 8 年度収支予算（案）について

●事務局より、資料 8 に基づき、令和 8 年度収支予算（案）について説明を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 2 号については原案のとおり承認とする。

(3) 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

●事務局より、資料 9 に基づき、黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について説明を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 3 号については原案のとおり承認とする。

協議事項**(1) 利用促進（高校生の取込）について**

- 事務局より、資料 10 に基づき、利用促進（高校生の取込）についての説明を行った。

○原田委員

アンケートで「仮に少し値段を下げた場合に通学として利用可能か」と聞いていることから、市内路線バスの運賃を高校生まで 100 円にする実証実験は料金を下げること結びつく施策であること、また、バス利用者を増加させるための取組であることは理解した。

一方、現在、高校生はどのような手段で通学しているか、また、現在の通学手段からどれだけバスを利用するか想定できる内容をアンケート結果で把握できるのか。

○事務局

現在保有しているアンケートの原票を確認すると、生徒が現在どのような手段で通学しているかは把握できるため、どの手段からの転換が想定されるかについても、把握できると考える。また、今回の資料に記載している「知らなかった人数」については、バス路線全体の存在を知らなかったという意味ではなく、桜井高校への通学に利用できる最寄りのバス停として「黒部市役所前」バス停があることを知っているか、という問いに対する回答である。その結果、これを知らなかった生徒が 521 人中 331 人となっている。

さらに、「通学に利用可能と回答した人数」につきましては、南北循環線のみに限定したものではなく、複数のバス路線名を示した上で、それらの路線が自宅の近くを通っているかどうかという観点から、通学にバスを利用できる可能性があるかと回答した人数を記載したものである。

今回の高校生の取込みについては、通学手段として自転車を利用している生徒が多い中で、自転車に関するルールや法令、特に傘差し運転への対応が厳しくなっていることも踏まえ、公共交通を活用して対応できる部分がないかという観点も含めて提案しているものである。

○原田委員

自転車利用が大半だとすると、雨の日にバスを利用するというのは、自転車通学の生徒には比較的よくあることだと思う。その点も含めて、実際に取り組みながら検討していくことになるのかもしれないが、組み合わせ方を考えながら進めたほうがよいと思う。

○菅野委員

告知はどのように行うのか。先生方や、生徒に伝えるだけでは、なかなか伝わらないと思う。PTA や同窓会を通じた周知も大事ではないかと思う。また、家族の中で公共交通に関する話をすることも含めて、重ねて告知を行わなければ、ただ「伝えた」、「広報等に掲載した」というだけでは伝わらないと思う。実際に伝わるような仕掛けが必要である。私も知り合いに伝えたいと思う。

○大村委員

市内路線バスの実証実験についてだが、運賃を下げるだけで高校生の利用が増加するかについては、懐疑的に感じる。一度運賃を下げると、その後引き上げることは難しくなると思う。また、本実証実験で一定の効果が見られたとしても、運賃を下げたまま本格運行に移行するののかという点については、交通事業者との協議が必要になるのではないと思う。

さらに、アンケート結果が一昨年のものであるため、当時回答した高校生はすでに卒業している可能性がある。アンケート結果が古いことを踏まえると、改めてアンケートを実施する必要があると考える。

利用促進の取組については、運賃を下げるだけでなく、路線変更やコミュニティバスへの通学定期の導入など、より持続可能な利用促進の方法を模索してはどうかと思う。

○事務局

実証実験の実施に当たっては、ご指摘いただいた点も踏まえ再度アンケート調査を実施予定であるため、その点に留意し進めていきたい。

○川端座長

本件については、課題もあると思うが、実証実験を進めていくということでご理解をいただければと思う。

この形で進めさせていただくことで、承認いただける方は拍手をしていただきたと思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、本協議事項については原案のとおり承認とする。

(2) 運賃について

●事務局より、資料 11 に基づき、運賃についての説明を行った。

○川端座長

バス運賃については、以前から、運賃に統一性を持たせたほうがよいのではないかと、またはワンコイン化してはどうかといった議論もあった。

一方で、現在はさまざまな物価が上昇しており、その状況の中、急な値上げを行うことも難しい状況である。そういった点も含めて、この運賃のあり方について検討を進めていきたい。

また、作業部会においても、以前から運賃について話し合いを重ねているが、なかなか適当な運賃料金を定めることが難しい部分もある。

この件についてご意見があればお願いしたいと思う。

○下石委員

免許返納者については、あいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道の運賃が半額になることは承知している。しかし、例えば夫が免許返納により半額になったとしても、妻はもともと免許を持っていなかったため半額にならない、ということがある。年金だけで暮らしている方の場合、黒部市から富山市へ出ようとする交通費の負担が大きいため、外出を控えたり、ためらったりしてしまうということをよく聞く。

他の自治体では、65 歳以上や 70 歳以上になると無料になる制度や、年間定期券を非常に安く購入できる制度があり、それによって外出しやすくなっている事例もある。外出機会が増加すると、福祉の面からもよい効果があると思う。外出機会の減少によって健康状態が維持できず、医療費や福祉費がかかるよりは公共交通運賃の割引制度を進める方が財政負担の点においてよりよいのではないかと思う。

そのため、縦割りではなく、その点も含めて考えていただき、免許返納者に限らず、何らかの手立てを講じていただければ、より公共交通機関を利用する人が増えるのではないかと思う。前から何度も申し上げていますが、ぜひ検討していただきたい。

○川端座長

今後、運賃について事務局で検討していくことになりますので、今のような大事なご意見も十分に考慮しながら進めていただければと思う。事務局においては、しっかり受け止めていただきたいと思います。

○下石委員

年間の免許返納者数は把握できると思うし、その数から配偶者の人数もおおむね把握できるのではないかと思う。概ね把握することができれば仮に無料までいかなくても、どの程度の金額までであればその方たちをフォローできるのかといった数字も見えてくると思う。これも以前から申し上げていることだが、その人数程度は把握できるのではないかと思うため、ぜひ検討していただきたい。

○黒川委員

私自身、まだ公共交通を本格的に利用したことがなく、既に改正を検討されているかもしれないが、資料を見ると、運賃の支払い方法が現金や回数券となっている。これ以外の支払い方法はないのか。

また、高校生については 100 円で、しかも現金のみと記載されていますが、今の時代、みなで常に現金を持ち歩いているとは限らず、公共交通を利用しようと思っても両替が必要になるなど、かえって公共交通の使いやすさが損なわれるのではないかと感じる。

現在は、さまざまな場面で簡単に支払いができる時代になっていますので、今すぐでなくても、将来的には、現金や回数券を持っていなくても利用できるような仕組みの導入を検討していただければよいのではないかと思う。

○川端座長

事務局で検討いただければと思う。

この形で進めさせていただくということで、承認いただける方は拍手をしていただきたと思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、本協議事項については原案のとおり承認とする。

(3) 新幹線生地線の休日対応について

●事務局より、資料 12 に基づき、新幹線生地線の休日対応についての説明を行った。

○下石委員

市民向けには新幹線生地線の休日対応の仕組みが分かるようになっていと思うが、観光客にも利用してもらうのであれば、ネットで検索してすぐに情報にたどり着けるシステムを構築しておく必要がある。現状のままでは、タクシー以外に手段がないと判断されてしまう恐れがあるため、観光客に向けた対応について確認したい。

○事務局

実際に新幹線生地線の休日運行があった場合に市のホームページで周知するなど、観光客向けに周知 PR して、実際に利用していただくよう推進したい。

○下石委員

観光客が簡単にアクセスできるシステムでなければ、どこを確認すればよいのかわからず、観光客は利用できないと思う。観光客が利用しやすいシステムを構築する必要があると思う。

○川端座長

観光客が利用しやすいよう、なるべく分かりやすく案内をしていきたい。

○下石委員

タクシーはいつ、どこでも予約できるシステムになっている。タクシー同様に、新幹線生地線もすぐにアクセスできるようにしなければ利用が難しいのではないかと思う。

○川端座長

運行実施は来年 4 月からであるため、事務局にはそれまでに検討していただきたい。

○原田委員

黒部宇奈月温泉駅に降りて、黒部市の市街地（市役所周辺）を訪れる人の公共交通手段は、毎度同じ手段の人ばかりではないと思う。私自身、バスを利用するか、電車を利用するか毎度悩む。本日は 12 時 59 分に黒部宇奈月温泉駅に到着する新幹線で来たため、新幹線市街地

線を利用しようとする、46 分間に乗り継ぎ時間が生じる。一方、富山地方鉄道を利用すると新黒部駅を 13 時 7 分に出発する電車があるため、乗り継ぎで待機する時間が無くて良い。

新幹線市街地線の利用者は、黒部宇奈月温泉駅で降車する観光客、通勤者、買い物に行く地域住民が想定される。特に、朝や昼間に新幹線で黒部宇奈月温泉駅に到着した方について、宇奈月温泉方面へ向かう人と、市街地方面へ向かう人がそれぞれどの程度であり、どのような形で移動しているのか、その実態を整理していただけるとありがたい。

また、それに対して、現在、公共交通がどの程度利用されているのか、あるいは、ほとんどの方が自家用車を利用しているのか、その割合も明確になっていない。自家用車の利用が多数の印象はあるが整理していただきたい。今後議論を進めるに当たって、基本的な状況が分からないままでは検討が難しいと感じているため、以上を明確に整理いただきたい。

○川端座長

ありがとうございます。

ニーズを捉えながら、路線を決めていくことは大事なことである。今後路線を検討していく中では、今ほどご指摘いただいた事も踏まえ検討していきたい。

この形で進めさせていただくことで、承認いただける方は拍手をしていただきたと思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、本協議事項については原案のとおり承認とする。

その他

●その他の事項について意見を確認した。

○菅野委員

「ローカル鉄道とまちづくりを楽しむ講演会&ワークショップ」についてご案内する。この取組は今年で 2 年目となり、市の補助金を受けながら開催している。今年は第 1 回と第 2 回の開催を予定しており、日程は 7 月 26 日と 8 月 2 日である。第 2 回については、富山地方鉄道鉄道線再構築検討会の専門委員を務めておられる宇都宮先生にお越しいただく予定である。ぜひご参加いただければありがたい。定員は 90 名としているが、最大 100 名程度まで参加可能とする見込みである。昨年は PR 不足もあり参加者が少なかったため、今年はできるだけ多くの方に来ていただきたい。まだ、ご存じない方も多いと思いますので、知人や友人に、ぜひ周知していただければありがたいです。

なお、第 1 回には、北陸信越運輸局鉄道部の渡邊さんにお越しいただく予定である。関係者の皆様に、ぜひ周知していただきたい。

○川端座長

講演会とワークショップということで、いろいろな意見も言える場になるのではないかとと思う。ぜひ積極的な話合いの場になればよいと思う。

○下石委員

公募委員になって 2 期目、3 年目になるのですが、最初から申し上げていることがある。担当の方も、市長も代わられているため、先ほど申し上げた、免許返納後の公共交通利用加えて、もう一点、ふれあい福祉券 3,000 円分の使い方について発言したい。

本券が、一度に 10 枚までしか利用できないということについて、女性は何とか工夫し、使用することができるようですが、男性はなかなか細かく使用できないと聞く。一度に使用できるのであれば、タクシー券として使いやすいという意見が多いと、私は受け止めている。このことについて以前もお伺い立てているが、「検討する」という言葉だけで終わり、実際に検討されたのか、結果がどうだったのかということが明確にされず中途半端なまま収束していることが、少し納得いかない。

先ほどの免許返納者数への対応についても同様に、検討するのであれば、その検討した結果を、ぜひ本会議で発表していただきたい。取組方針、市としての姿勢を示していただきたい。

○事務局

担当課として、ふれあい福祉券の 1 回当たりの利用制限は、なるべく外出機会を増やしていただきたいという趣旨で行っている。仮に一度に何枚も使用できるようにすると、1 度で使い切り、外出機会が減少することも考えられる。その場合、ふれあい福祉券の趣旨が損なわれてしまうため、一回当たりの上限を設定している。

○下石委員

趣旨は十分理解している。それでもなお、必要とする方がおられるということで、縦割りを排除して、多様な使い方ができるよう検討していただきたい。

○上坂会長

それは縦割りではないと思う。現在は、上記の趣旨があり、このような運用になっているということである。

ご意見については、しっかり受け止め、よく考えていきたいと思う。

○川端座長

原田委員、全体を通して、何かご意見ありますでしょうか。

○原田委員

報告にもあったが今年度、富山地方鉄道鉄道線再構築検討会が開催されており、委員の宇都宮教授とよくお話をしている。富山地方鉄道の存廃の議論については、術がないということではなく、方法がいくつかあり、適切な方法を選択することが重要だと受け止めているため、ぜひ適切な方法をご検討いただきたい。

○川端座長

様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。他に意見がなければ以上で本日の協議会を終

了したい。

閉会（事務局）

●事務局

以上をもって、第 47 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会する。 以 上